

小平市公共施設マネジメント市民会議

報告書（平成28年度）

いつまでのわくわくする場をみんなで創ろう



平成29年3月

小平市

目次

1 小平市公共施設マネジメント市民会議 概要

- (1) 趣旨・・ 1
- (2) 登録制度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) 日時・場所・参加者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2 市民会議の実施内容等

- (1) 第1回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) 第2回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (3) 第3回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (4) 第4回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (5) 第5回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

3 資料

- 市民会議ニュース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

1 小平市公共施設マネジメント市民会議 概要

(1) 趣旨

公共施設を取り巻く環境が、変わろうとしています。

小平市の多くの公共施設は1960年代から1970年代に建設しているため、建設から40年から50年が経過し、これらの公共施設の老朽化が進み、約10年後から一斉に更新時期を迎えます。また、これからの人口減少・少子高齢化、そしてこれらに起因する財政バランスの悪化により、これまでの人口増加を前提とした仕組みや考え方に対して、転換を迫られる状況にあります。

このような背景のもと、平成26年度に小平市では公共施設の現状と課題を記した「小平市公共施設白書」を策定し、平成27年度にはこれからの公共施設のあり方の基本的な方針を示した「小平市公共施設マネジメント基本方針」（以下「基本方針」という。）を策定しました。

公共施設は市民が利用することでその効果を発揮することから、市民と対話をしながら、そして市民の意見を取り入れながら公共施設マネジメントを推進する必要があります。

小平市公共施設マネジメント市民会議（以下、「市民会議」という。）は、基本方針に沿った取組みを推進するために策定した「小平市公共施設マネジメント推進計画」に、市民の意見を取り入れることを目的に、平成28年5月から平成29年2月にかけてワークショップ形式などにより実施した会議です。

(2) 登録制度

①登録者数

38名

②登録事項

住所、氏名、電話番号、性別、年齢（年代可）、市民の別（在住・在勤・在学）、自由意見

(3) 日時・場所・参加者数

全5回開催、延べ参加者数 55名

第1回 平成28年5月14日（土）14:00～16:00 福社会館 小ホール

参加者数 12名

第2回 平成28年7月23日（土）14:00～16:00 中央公民館 講座室2

参加者数 13名

第3回 平成28年7月26日（火）18:30～20:30 中央公民館 講座室2

参加者数 12名

第4回 平成28年9月24日（土）14:00～16:00 中央公民館 学習室4

参加者数 10名

第5回 平成29年2月11日（土）14:00～16:00 中央公民館 学習室4

参加者数 8名

2 市民会議の実施内容等

(1) 第1回

①スケジュール

平成28年5月21日（土） 福社会館 小ホール 参加者数 12名
 14:00～14:05（5分） 開会
 14:05～14:25（20分） 自己紹介
 14:25～15:10（45分） 市からの説明
 15:10～15:15（5分） 休憩
 15:15～16:00（45分） 自由意見交換

②自由意見交換

「コミュニティ、まちづくりの視点から、公共施設をどうすべきか」について、自由に意見交換を行った。

テーマに関する意見	
	民間事業者はクラウドコンピューティングなどを利用するようになり、資産を持たず、経費化できている。今後は、行政は施設を保有せず、民間に任せてみてはどうか。
	学区域によって少子化の状況が異なる。学区ごとにコミュニティを考えてはどうか。
	時代ごとに状況は変化する。計画の中では見直しの考え方も入れるべきである。
	防災の視点を入れるべきである。
	小平の特徴は土地がたいら（平）であり、移動の自由度が高い。建物の設計の面でも制限が少なく自由度が高い。地理的な特徴をうまく生かせば小平市独自の方策が取れる。
	空き店舗を活用し、まちの中に公共的な空間を確保してはどうか。新しく施設を建てるより、今あるまちなみを生かすべきである。
	施設を建てる際は、コンクリートではなく土壁構造の建物かどうか。作る段階から市民と共同作業をすれば、地域の結束・コミュニティの形成につながる。コストも削減でき、施設にも愛着がわく。
	地域の人口密度を考えて適切な再配置を検討してほしい。
その他の意見	
	行政の縦割りを排除してほしい。例えば、子ども広場、児童館や地域センターなどの併設施設の管理を縦割りでなく、一元的な管理をするよう進めてほしい。
	財政など多岐にわたる話であり、他の課の職員も市民会議に参加するべきである。
	市の職員が市民のところへ出向いて公共施設マネジメントについて説明していくことも必要である。
	広報、周知のやり方について、ポスターやチラシを商店街、駅やコンビニエンスストアに掲示してもらおうなど、工夫をしてほしい。市民もできることは協力する。
	ここで出る意見が有効になるようにしてほしい。

(2) 第2回

①スケジュール

平成28年7月23日（土） 中央公民館 講座室2 参加者数 13名

14:00～14:10(10分) 開会

14:10～14:25(15分) 市からの説明

14:25～15:35(70分) ワークショップ（3グループ）

15:35～15:50(15分) 発表

15:50～16:00(10分) 講評、事務連絡

②ワークショップ テーマ「公共施設における地域コミュニティについて」

3グループに分かれて、テーマに沿って個人ごとに意見を付箋に書き出し、付箋を模造紙に貼りながらグループ内で意見交換を行った。意見交換後、グループごとに出された意見を発表した。

【出された意見】

Aグループ
これからの公共施設の役割について
現状の問題点を解決するような方策を取り込む。
公共施設本来の利用のあり方を大切にする。
カバーできていない層への対応 新機能の取組み
特定少数に偏らない設定
聖域なき改変
複数機能に対応できる（した）施設
防災を視野に入れた施設づくり
小平の公民館の多さは、コミュニティにとっていい影響を与えていると思う。それをどう継承できるのか。
郷土愛を育む（学校・公民館など）
交流の場
行政課題の解決（ゴミ、市役所、給食）
民間ではできないものを実現する（文化など）。
これまでの公共施設はどんな考えで配置したのか。
複合化は設備投資以外に理由があるのか。
財政バランスの悪化がなくても統合化複合化は必要
人口の流入・流出（人口推計）産業計画
近隣都市の複合化は広域コミュニティでは有効
都市計画の将来像がベースになる。
目的 保育・教育・市民交流、自治会活動、防災拠点
公共施設への時間距離も重要、道路計画とリンク
複合化にITも活用すべき 企業、人
東京都
新しい施設を作るにあたっての情報公開、住民参加がどれだけあるかで、住民とその施設への関わり、親しみも変わってくる。できるだけ、そのような住民参加を早い段階で進めてほしい。意見を反映させる仕組みを作してほしい。
利用者の意見を聞いて、その施設で何が重要かふまえて進めてほしい。
学校を拠点に複合化に期待するところもあるが、今保育士や介護士の待遇改善の声が高まっているように、働く人はどうするのか、という問題をきちんと進めていってほしいと思う。
地域コミュニティとしてどのような単位がよいか。
小学校区 歩いて行ける。
ミニ図書館がある。

お茶が飲める。
食事ができる。
赤ちゃんがいる場所
親切な職員がいる。
地域コミュニティの単位としては、少なくとも小学校区くらいの広さにしてほしい。
高齢者が気軽に使える運動施設（公園も）
あらゆる年齢層が利用し交流できる。
子供から大人まで継続して利用できる。
活動が見えることで参加意欲がわく。
どこかにコンビニがあってもいい。
民でできることは民でやり、その分を必要なところに回す。
防犯、防災機能を加えた諸施設
保育園は単一機能でなく他を加える。
小学校が地域社会になるように、地域センター機能等含める。
学童クラブ 体育館の前室のような施設でなく、ある程度居心地のいい環境にしてほしい。
公民館 子どもや高齢者が歩いて行ける距離にあり、誰でも参加しやすいバリアフリーの施設にしてほしい。発表ができる場、ギャラリーなど小さくても付いているといい。
公民館 施設ごとに市民が自由に利用できる掲示板を設置する。
公園 「広場」として人の集まる場 自由につかえるあそび場
公園 公園の活用 イス、テーブル設置など、灌木を除いて広く使う。
Bグループ
これからの公共施設の役割について
むさびびの人にも入ってもらい楽しい施設にする。
大学とも連携してアイデアだしてもらおう。
ほっとする土壁など素人でも参加できる施設造り
複合施設
将来に負担を残さない。
第3セクによる複合施設の建設
複合施設には公共・商工業・住宅・病院など入居
各学校を利用する。
いろいろな人が出会える場所（世代間）
高齢者も子どもも3世代一緒に集まれる場所
お年寄りと子どもが一緒にすごせる。
多様な人にやさしいあたたかい。
どの世代にとっても親しみやすいもの
年配の方の協力と児童とのかかわり
年配が多くなって来るので御近所のコミュニケーションのあり方
行きやすい。
公共交通の利便性
歩いてゆける。
足の不自由な人とか赤ちゃん連れの方を考慮する。
使い勝手のよいもの
交通の便がよい所にあること
安全な所
避難所としての機能をそなえたもの
地震に対する地域の見通しと協力のあり方
防災の為の公共施設（地域運動会等のよびかけ）
自由に行ける所
小学校区にひとつはあって欲しい。
中学校区を中心とする 小・中合併区を。
西武線 多摩湖線、国分寺線の廃線を考えておく。

施設の目的をはっきりさせたもの
地域コミュニティとしてどのような単位がよいか。
包括
中学校
小学校
防災は小学校区
学校を核にして細やかなところへは空家など活用
自治会→小さい
町ごと
Cグループ
これからの公共施設の役割について
財政バランス（PFI/PPP） →7月26日検討テーマ その時に考えよう。
財政バランス PFI PPP
市行政に民の力を
単位は無い
老朽化改善（財政バランス⇔優先度 何を最初とするか。）
防災
老朽化（地震、火災）安全性UP
防災拠点を意識した町づくり
防災公園づくり
災害に強いまちづくり
<安心・安全>
公共施設の改善（改修）→すべての公共施設→防災拠点を優先（防災公園、etc）→小学校区単位
施設利便性（財政バランス⇔民間が協力）
自治会・町会
利便性（複合化、専門性、集約化）
学校施設をコミュニティ化する
学区内で建て替え時地域を変更
空き家の活用（小さな公民館）
なかまちテラスの様な利便性の向上（市民はどうかな）10億円もかけるのか。（若い人は注目している）
→町内会単位
新市民と交流
（会長のやる気の問題）
交通改善（財政バランス⇔公共の補助）
コミュニティ路線拡大
地域内にバスを走らす為に道路拡大
自転車にやさしい道づくり
交通快適性（バス、自転車、歩道）
高齢化/若い母親（財政バランス⇔市民の居場所）
高齢化（福祉）（ユニバーサル（バリアフリー）⇔車イス利用、サイン（見やすさ）
公民館のあり方 高齢者と低年齢層
わくわくする場所

(3) 第3回

①スケジュール

平成28年7月26日（火） 中央公民館 講座室2 参加者数 12名

18:30～18:40(10分) 開会

18:40～19:05(25分) 市からの説明

19:05～20:05(60分) ワークショップ（3グループ）

20:05～20:20(15分) 発表

20:20～20:30(10分) 講評、事務連絡

②ワークショップ テーマ「公共施設マネジメントにおける公民連携について～PPP/PFI～」

3グループに分かれて、テーマに沿って個人ごとに意見を付箋に書き出し、付箋を模造紙に貼りながらグループ内で意見交換を行った。意見交換後、グループごとに出された意見を発表した。

【出された意見】

Aグループ	
これからの公共施設の役割について	
	大学との連携
	ちょっとした喫茶コーナーがあるもの
	「食」につながるもの
	防災対策（インフラ優先）
	災害時の拠点
	企業の役割とは別ではないか。
	民間活用、NPO支援
	人育て
	運営は民営化中心 税収減を補う収入
	商店ともつながること
	誰でも歩いて利用できる距離にある。
	人が集まれる場所が必要
	身近な居場所（誰でも利用できる近さ）
	家に人を呼ぶ時代ではない。
	複合施設
	機能を複合化したもの
	複合的なサービス提供
	行政の縦割りにこだわらない管理
	コミュニティ、社会教育、文化 集約・複合化
	小、中学校中心に集約・複合化
	社会人も使えること
	市民も参加できる。
	子どもの交流ができる場所
	子どもの作品がある。
	少子化対策 保育・教育中心
	子育て支援につながるもの。
	プレーパーク
	おまつりの実施
	人口減少を食い止めるアイデア ①生産年齢層を呼びこむ ②保育所の充実
	独居の高齢者がつながる工夫
	高齢化対策 介護・医療中心
	障がい者にやさしい施設とサービスの提供
PPPのアイデア等	

市内コミタク
大学生がインターンシップ
空き家 子ども食堂
古民家を残す。
空き店舗で楽しく
小学校に保育施設
若いママが地域で働く。
農とカフェ
プチいなか 道の駅
小川駅にすてきなカフェ
小川駅前広場 マルシェ
継続のスキーム
稼ぐファイナンス
おしゃれ感
季節行事を地域で実施
子ども塾
ママカフェ
お母さんのメニュー紹介
空き店舗で地域拠点
市境の問題
市の端での隣市との連携
商店街と交流の場づくり
マンション住民と地域→マンションの広場で交流
売れることだけか。企業メリット
大型企業の協力を引き出す。
社会貢献すること
企業、NPOと市民と行政
大学生・高校生も協力参加する。
地域住民が参加するプログラム
複合化 図書館+公民館
地域センター 飲食店、カフェにおまかせ
小、中学校 +公民館、+老人保健施設 複合化
転用 子ども館+保育園
行政サービス 郵便局、コンビニ導入（弱者対策）
公民館① 市民団体利用者団体
災害時の避難所運営
調理室の活用 水をたくわえる。
講座の企画実行→市民、NPO
空き家②⇒コミュニティの拠点 カフェ（市民、商店）、子どもの居場所、学習支援
井戸③⇒自治会、農家、商店会で管理
地域センター④ 地域市民の運営、買物
Bグループ
これからの公共施設の役割について
楽しい
楽しい 集まれる
お年寄りが小さな子供をみる。
わくわく楽しめる施設
新しい価値が生まれる施設
いろいろな交流を生む。
複合
複合施設

なんでもあり デパートメント いろいろなものがある。
高齢者の病院、マッサージ、スポーツジム等々
複合化（ごちゃまぜ）の施設を民間と一緒に作る。
複合化、多機能化の適正配置
背景をふまえ、イノベーションの推進を導く。
市民・行政の意識の変革をどうするのか。
これからの公共施設のあり方を構築
公共・民間との連携・協働の推進
住民ニーズの対応と地域に密着
お金
将来に負担を残さない施設
安全
防災の施設
PPPのアイデア等
PPP/PFIをみんなで創造する。
PPP/PFIの基本的なロードマップ
民間の得意分野を活用
公共施設で楽しいイベントを開催
公共施設の再構築イベント
教室を活用して、いろいろなサークル活動
担い手
高齢者に管理、運営してもらおう。
マネジメントの強化
資産有効活用→運用管理とマネジメントの構築
歴史的価値のある施設を民間に任せて喫茶店などでにぎわいを。
未活用の土地や建物を民間に貸す。
お風呂、プール
学校給食を皆が食べられる。
新しい価値
役所のルールより公共施設が利用しやすくなる。
すでにある施設にはコンビニやお店を。
カフェ、コンビニ→福利厚生
映画館、ホール等
民間の力でイメージアップ（洋服屋、カフェ）
Cグループ
これからの公共施設の役割について
わくわくする居場所
コミュニケーションがとれる場所
市民が集え、なごみ、交流できる。
異年齢の交流のたまり場
異世代が集える場
子育て 赤ちゃんとお年寄り交流
防災
防災に強い 万全な備えがある場
防災拠点としての機能の充実
防災、災害時の拠点
災害時の避難所
多目的
多目的に使用できる場 多機能を有する。
多目的、複合使用できる施設
バリアフリー

バリアフリーで市民が気軽に利用できる。
稼ぐ
競争から協働へ（青少年世代の交流、スキルアップ）
学校と地域住民のニーズにあったもの
学校の給食を地域の方にも一緒に食べられるスペース
地場産コーナー マルシェ、レストラン
レストラン、コーヒーショップを備える。
市役所の食堂
中央公園体育館にカフェ、談話室
市民総合体育館の売店の活用
ルネハーモニーの活用
企業
市内企業との連携
収入を生む公共施設（多機能化、マンション、ホテル etc）
外国人も利用可能（国際交流の進展）
受験生用のホテル
格差をなくす。
貧富の格差を是正する場（人口知能対応）
情報発信
市民に発信する場（情報基地）
情報交換の場
文化発表の場
小平の特色を生かす。
玉川上水のそばの施設は他県等からも歩く人のためのスポットを作る。
サッカー
サッカー応援に来た人を呼び込む。
サッカー専用スタジアム
サッカーグッズショップ



(4) 第4回

①スケジュール

平成28年9月24日（土） 中央公民館 学習室4 参加者数 10名

「小平市公共施設マネジメント オープンハウス」の中で開催

14:00～14:10(10分) 開会

14:10～14:35(25分) 市からの説明

14:35～15:35(60分) ワークショップ（3グループ）

15:35～15:50(15分) 発表

15:50～16:00(10分) 講評、事務連絡

②ワークショップ テーマ「公共施設マネジメントを推進する上で大切なこと」

3グループに分かれて、テーマに沿って個人ごとに意見を付箋に書き出し、付箋を模造紙に貼りながらグループ内で意見交換を行った。意見交換後、グループごとに出された意見のうち、主な3点の意見を発表した。

【出された意見】

Aグループ	
考え方の土台	
	市民のわくわくとは何かを明確にする。
	まちづくり全体像を示す。
	小平のまちづくり全体（どんなまちに住みたいか、未来世代も）を考えながら推進すること。
小平市の魅力	
	サービス(機能)で担保することをハッキリさせる。
	具体的な検討内容にブレークダウンする。
	ハードのコアだけでなくソフトウェア(コンテンツ)の充実
	小平市が他市と差別化するのは自然…これを生かすこと。
	今ある自然を残し、さらに共有できるようにする。
	生産緑地を農家の方が維持しやすいように市民参加する。
	生産可能年齢の家族を呼びこめるように、子どもの遊び場を作る。
	自然に親しめる公共施設作り。児童館→プレーパーク（お金がかからない）
	各小学校に特性を持たせ魅力的にする。第十一小学校
	十三小学童クラブ→プレーパークに。
市民の関わり方、必要なこと	
	考えられうるシナリオを市民に提示する。
	進行状況をわかりやすく市民に知らせる。
	市民が学ぶことで協働しやすくする。
	「日常(常設)で情報に触れやすいこと」(→広報と関係)
	「情報の共有」(市民どうし/市民⇄行政など)(垣根をこえる)
	多世代、異業種、障がいの方などの人が関わること
	小平市民以外(勤務、通学で来る人も)も参加する。
「おまけ」として	
	毎年見直しをする。
	プロジェクト単位(建物以外の)を明確にし、収支を明らかにする。
	長期間継続して担当する。
	(推進に関わる人)長期可能+入れかわり、出入り自由(特に行政の側)
Bグループ	
参加の場のつくりかた	
	公共施設の管轄が違って話し合いができる。

みんなが参加して話し合いができる。
今までのスタイルから新しいスタイルに変わる時には参加できる環境か。
都との関係
東京都と小平市のボーダーをこえる。
決まるまえに情報提供
理念と部分をすりあわせる努力
すでに決まっていることを話し合うのはナンセンス
Cグループ
インフラ資源
農地（緑）の魅力とは。
公共資産、公共資源⇔公共施設
公共施設を使うのはだれか。
コミュニティのための場は地域の魅力となるのか。
勤務先と住む場所
コミュニティに必要なもの 集まる場所
小学校 核になる。
自転車／歩行者
農地（緑）の維持は所有者 魅力は享受来訪者
道路は2種類、通過交通と生活道路。
玉川上水はもともと通過交通。小川上水は生活用水。
緑と道路は敵か。
用水とか橋とかインフラ整備するならちゃんとオシャレに。
インフラ、新しい施設は建てず、今あるものの使い道を考える。
この会自体について
1つの課だけのイベントではなく、色々な課の人が、集まるワークショップを行う。
まちづくりというのは「市ぐるみ」ワークショップの課で合同して、市民ももっと参加できる。
複合化もコンセプトをしっかりと立てて内容を決める。
方向性の具体化（フワっとしすぎ）誰のワクワクか。
公共施設そのもの サービス 疑問
道路って本当のところ、どの位つくるべきなのか。必要なものも必要ないものも含めて。
ネット、ウェブで代用できるか。
官と民の介入度合の適性さ 官の方が優れているところ、民の方が優れているところ
どの公共施設のどんな部分にお金がかかっているかを徹底的に洗い出して可視化
市民にサービスが還元されているという分かりやすさ
目先のコストよりも魅力さ（新たなランドマークになったりするかも）
市民からも大事だが市外からみても魅力的な公共施設。移住したいな、学生
公共施設の利用状況の改善案
統合化しても不便を感じないようにする。（場所が集まる→数が減る）
公共施設を使わなくても生きられないか。
何もない、場だけがあるという多目的性をもっと生かす。ヨガ教室
公共が入らなくても（公共が施設を手放しても）市民の手で建物を使うことはできないか。
どんな公共施設のサービスが市民から求められているかを調査する。
今の公共施設には公共感があっても、「住んでいる人のため」感がない。本末転倒
仕事を小平につくる！（副業でもよいので。）→若い人入ってくる→税
公共ホール・美術館（遠くても）／公民館⇔地域住民（近くないと）

(5) 第5回

①スケジュール

- 平成29年2月11日（土） 中央公民館 学習室4 参加者数 8名
14:00～14:05(5分) 開会
14:05～14:45(40分) 市からの説明
14:45～15:50(65分) 公共ファシリティマネジメントゲーム（2グループ）
15:50～16:00(10分) 事務連絡

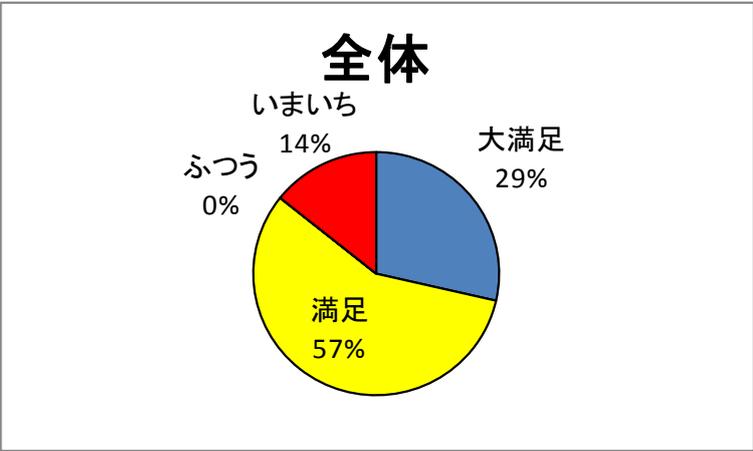
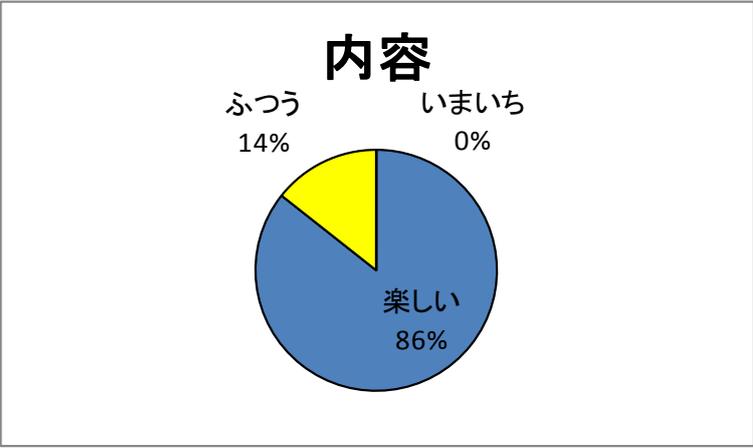
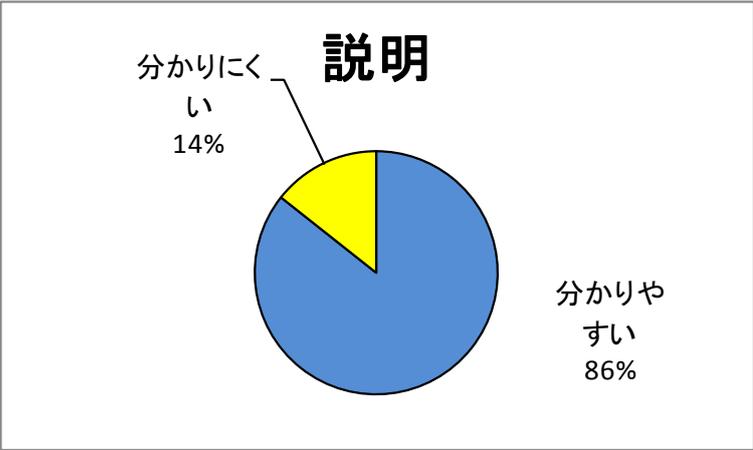
②公共ファシリティマネジメントゲーム

公共ファシリティマネジメントゲームは、さいたま市などが開発した公共施設マネジメントを題材にしたボードゲームで、将来の人口減少・少子高齢化、施設の老朽化などの「条件」を踏まえながら、公共施設の複合化などの方策を駆使し、効率的で効果的な公共施設の適正化を考えるゲームである。

参加者は、2グループに分かれて公共施設マネジメントを推進するプレイヤーとなり、ゲームを体験することによって、公共施設マネジメントに対する更なる理解と関心を高めていく。

【ゲームのアンケート】

感想
ゲームはおもしろかったです。もう一度やってみたい。
公共施設マネジメントの実際を考える時のイントロとしてとても有益と思います。楽しみ、苦しみ、頭を使いました。
ゲームなのであり・・・ですが、どうして推進していくのか課題と問題点を整理していかなければと思います。
面白かった。各論レベルでもコンセプトをはずれないように考えなければいけないことを痛感しています。わくわくとともにイキイキ（特に高齢者男性）をめざしていきましょう。世界は今、大変革のうねりが出始めています。視点もパラダイムシフトが時代から要請されています。
用意されているカード（例 小学校・中・新設）にもっとバリエーションがあるのではと思う。ゲーム自体はよく考えられていると思います。 人を増やす方法、新しい農業振興法の事も条例に入ってくれば状況が変わっていくと思う。小平市の特徴として都市農業に利益拡大を考えてはどうか。
具体的に何を考えなければいけないのか、とても悩ましいゲームでした。おもしろかったのは1人でゲームをしていたらうまくいった点です。これは合意形成の難しさを実感しました。1人ならどうにでも好きなようにできる。でも他の人がいるといろいろな意見があるのでどうまとめていくのか難しいと思います。合意形成をつくるためのどう他の人の意見を取り入れ納得しながらできるのかを訓練するにはとてもよいと思います。まさに社会の縮図が凝縮されたゲームでした。もっとやるとよいと思います。小平版オリジナルをぜひ。
参加者が少なく残念でした。現実的なことと感じ、役立つゲームだと思う。



3 資料

市民会議ニュース

平成28年度小平市公共施設マネジメント市民会議ニュース

VOL.1 平成28年5月14日

第1回 小平市公共施設マネジメント市民会議

- 日時：平成28年5月14日(土曜) 午後2時～午後4時
- 場所：福祉会館 小ホール
- 概要：① 開会
② 自己紹介
③ 市からの説明
④ 自由意見交換
⑤ 閉会



市では、将来の人口減少や施設の老朽化など、公共施設を取り巻く環境の変化を見据え、平成27年12月に、これからの公共施設の大きな方向性を示した公共施設マネジメント基本方針を策定しました。基本方針に沿った具体的な取組を推進するため、(仮称)公共施設適正配置実施計画などを策定するにあたり、市民の皆さんの声をお聴きし、意見交換を行う市民会議を開催しています。



市民会議の様子



市からの説明の様子



意見交換の様子

今回の市民会議では、市民と行政、そして市民同士でも活発な意見交換ができるよう、輪になるように椅子を配置しました。主な意見は裏面のとおりで。



裏面につづく



市民会議で出された主な意見



1 コミュニティ、まちづくりの視点から、公共施設をどうすべきか。(意見交換のテーマ)

- ・学区によって少子化の状況が異なる。学区ごとにコミュニティを考えてはどうか。
- ・防災の視点を入れるべきである。
- ・小平市の特徴は土地がたいら（平）であり、移動の自由度が高い。建物の設計の面でも制限が少なく自由度が高い。地理的な特徴をうまく生かせば小平市独自の方策が取れる。
- ・空き店舗を活用し、まちの中に公共的な空間を確保してはどうか。新しく施設を建てるより、今あるまちなみを生かすべきである。
- ・地域の人口密度を考えて、公共施設の適切な再配置を検討してほしい。
- ・施設を建てる際は、コンクリートではなく土壁構造の建物かどうか。建物を建てる段階から市民と共同作業をすれば、地域の結束・コミュニティの形成につながる。コストも削減でき、施設にも愛着がわく。
- ・特に若い世代が利用したくなるような魅力的な公共施設を整備してほしい。公共施設マネジメント基本方針に掲げる「わくわく」感につながると思う。
- ・民間事業者は、クラウドコンピューティングを活用して情報データをインターネット上に保存するなど、資産を持たず、経費化できている。今後は、行政は施設を保有せず、民間事業者に任せてみてはどうか。

2 その他の意見

- ・行政の縦割りを排除してほしい。例えば、子ども広場、児童館や地域センターなどの併設施設の管理を縦割りでなく、一元的な管理をするよう進めてほしい。
- ・時代ごとに状況は変化する。計画の中では見直しの考え方も入れるべきである。
- ・広報について、ポスターやチラシを商店街、駅やコンビニエンスストアに掲示してもらうなど、工夫してほしい。市民もできることは協力する。
- ・市民会議で出る意見が有効となるようにしてほしい。



【お問合せ】

小平市 企画政策部 行政経営課

〒187-8701 小平市小川町2-1333

TEL 042-346-9756 FAX 042-346-9513

メールアドレス gyoseikeiei@city.kodaira.lg.jp

平成28年度 小平市公共施設マネジメント市民会議ニュース

VOL.2 平成28年7月26日

第2回 小平市公共施設マネジメント市民会議

- テーマ：公共施設における地域コミュニティについて
- 日時：平成28年7月23日(土曜) 午後2時～午後4時

第3回 小平市公共施設マネジメント市民会議

- テーマ：公共施設マネジメントにおける公民連携について～PPP/PFI～
 - 日時：平成28年7月26日(火曜) 午後6時半～午後8時半
- ※場所はいずれも中央公民館 講座室2

市では、将来の人口減少や施設の老朽化など、公共施設を取り巻く環境の変化を見据え、平成27年12月に、これからの公共施設の大きな方向性を示した公共施設マネジメント基本方針を策定しました。基本方針に沿った具体的な取組を推進するため、(仮称)公共施設適正配置実施計画などを策定するにあたり、市民の皆さんの声をお聴きし、意見交換を行う市民会議を開催しています。

市民会議の様子



市からの説明の様子(第2回)



ワークショップの様子(第2回)



発表の様子(第3回)

今回の市民会議は、会議の冒頭でテーマについて市から説明を行った後に、グループに分かれてワークショップを行いました。市からの説明の概要とワークショップで出た主な意見は裏面のとおりです。

裏面につづく



テーマについて(概要)



1 公共施設における地域コミュニティ

小平市公共施設マネジメント基本方針では、施設の配置について学校や駅などを中心としたゾーニングを考慮しながら検討を行うとしています。市民同士のふれあいや交流など地域コミュニティを育む場として、公共施設の機能が求められる中、地域コミュニティを考慮した地域区分について考えていく必要があります。

2 公共施設マネジメントにおける公民連携について～PPP/PFI～

人口減少・少子高齢化、施設の老朽化、財政バランスの悪化など、今後の公共施設を取り巻く環境が変わろうとしています。これら課題を解決するひとつの手法としてPPP/PFI (Public Private Partnership/Private Finance Initiative) といった公民連携があり、その可能性について、検討を進める必要があります。



ワークショップでの主な意見



1 公共施設における地域コミュニティについて

- ・公共施設は、子どもや高齢者が歩いて行ける距離にあってほしい。
- ・自治会を地域区分の単位とした場合では、範囲が狭いのではないか。
- ・多世代の交流の場を生み出す場として、学校施設をコミュニティの核としてはどうか。
- ・防災の拠点としての機能を優先した場合、小学校区単位が望ましい。

2 PPP/PFI の視点から新しい価値の創造などのアイデアについて

- ・公共施設に郵便局・コンビニ・カフェを誘致して、高齢者等の利便性の向上と職員にとっての福利厚生につなげるとともに、賑わいやおしゃれ感を創出する。
- ・行政の保有する資産を民間企業に貸すなど運用を行い、得られた収入を施設整備費などに充てる。
- ・PPP/PFIを活用して、財政的な負担の軽減につなげる。
- ・行政との連携は、民間事業者にとっても地域貢献の面でもメリットがある。



【お問合せ】

小平市 企画政策部 行政経営課

〒187-8701 小平市小川町2-1333

TEL 042-346-9756 FAX 042-346-9513

メールアドレス gyoseikeiei@city.kodaira.lg.jp

平成 28 年度 小平市公共施設マネジメント市民会議ニュース オープンハウス 特集号

VOL.3 平成 28 年 9 月 24 日

小平市公共施設マネジメント オープンハウス

- 日時：平成 28 年 9 月 23 日(金曜) 午後 1 時～午後 8 時
平成 28 年 9 月 24 日(土曜) 午前 10 時～午後 5 時
- 場所：中央公民館 学習室 4
- 概要：① 常設展示
② ライブペイント (9月23日午後4時30分～午後6時)
③ 第4回公共施設マネジメント市民会議(9月24日午後2時～午後4時)

市では、将来の人口減少や施設の老朽化など、公共施設を取りまく環境の変化が見込まれることから、公共施設マネジメントを推進しています。

より多くの市民の方々が、公共施設マネジメントについて考えるきっかけになるよう、これまでの市の取組みを展示し、来場者と個別に対話するオープンハウスを開催しました。また、あわせて市民が参加して公共施設での出来事を自由な発想で楽しみながら絵を完成させるライブペイントや、公共施設マネジメント市民会議を開催しました。



①常設展示



小平市公共施設白書、小平市公共施設マネジメント基本方針、(仮称)公共施設適正配置実施計画に関する内容などをパネル展示し、また、公共施設マネジメントに関する発行物や市民会議に関する展示も行いました。



会場の様子



パネル展示の様子

アンケートについて

1 シールによるアンケート

オープンハウスに参加された方々に、パネル展示などを見終えた後に、「**公共施設マネジメントの推進について関心が高まりましたか。**」というシールアンケートをお願いしたところ、35名の方々が回答し、全員が「はい」にお答えいただきました。



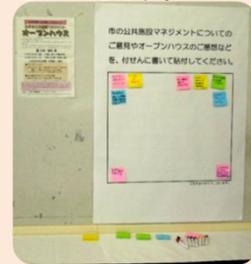
シールアンケート

2 付せんによるアンケート

公共施設マネジメントに対する意見や、オープンハウスに対する感想を、付せんに自由に記載していただき、壁に備えけた模造紙に貼って頂きました。

付せんに書かれた意見や感想

- ・「学区」を見ると、小・中学校を軸に集約すればいいんじゃないかと思った。
- ・とても分かりやすく、かいつまんで説明していただきありがとうございました。
- ・本日は、長時間ありがとうございました。
- ・マンガでマネジメント！年齢問わず今後も続けて下さい！
- ・入りやすく展示してありますね。家族でもOK
- ・ていねいな説明 よく納得できました。
- ・わかりやすい説明と展示でよかったです。
- ・またマンガを描いてみたいです。
- ・マンガが面白かったです。
- ・絵がおもしろかったです。



付せんアンケート



②ライブペイント



オープンハウスにあわせて、ライブペイントを行いました。

ライブペイントとは、あらかじめ描かれた公共施設のデッサンの周りに、公共施設での出来事を自由な発想で描いて絵を完成させるイベントです。

ライブペイントでは、5月から6月にかけて開催した公共施設マネジメントマンガ教室の講師である戸城イチロさんに講師をしていただきました。

また、ライブペイントを始める前に、戸城イチロさんから公共施設マネジメントマンガ作品集の作品の講評をしていただき、参加者も熱心に聞いていました。



ライブペイントの様子



完成した作品はオープンハウスにて展示



参加された方みんな
楽しみながら
絵を描きました！



③市民会議



オープンハウスにあわせて、市民会議を開催しました。

今回の市民会議は、平成 28 年度に策定する(仮称)公共施設適正配置実施計画 及び(仮称)公共施設等総合管理計画の方向性について市から説明を行いました。その後、「公共施設マネジメントを推進する上で大切なこと」をテーマに、ワークショップを行いました。



パワーポイントを使った市からの説明



説明を聞く参加者の様子

市からの説明に対する主な意見・質問

- ・市は公共施設マネジメントを推進する理由や背景について、複数の想定を示すべきではないか。
- ・小平市として「まち」をどうしていくのが重要であり、公共施設マネジメントが他の計画体系の中でどのような位置づけなのか。
- ・大きな道路はコミュニティを分断することもあり、公共施設の適正配置を行う上で考慮すべきではないか。
- ・大規模な開発によって「まちの魅力」を高めるのではなく、小平の良さである緑を前面に出すことにより、まちの価値を高め、人口の増加につなげる考え方もある。

ワークショップで出た主な意見 テーマ「公共施設マネジメントを推進する上で大切なこと」

- ・自然と親しめる公共施設を整備する。
- ・全体のまちづくりを考えながら公共施設マネジメントを推進する。
- ・みんなが参加して話し合いができる場をつくる。
- ・様々な課や市民がもっと参加できるように、もっと開かれたワークショップを開催してはどうか。
- ・行政の縦割りを超え、関係する機関が連携する。
- ・官民連携について、官と民のそれぞれの優れているところを活かした連携を図る。



ワークショップの発表の様子



【お問合せ】

小平市 企画政策部 行政経営課

〒187-8701 小平市小川町2-1333

TEL042-346-9756 FAX042-346-9513

メールアドレス gyoseikeiei@city.kodaira.lg.jp

平成28年度 小平市公共施設マネジメント市民会議ニュース

VOL.4 平成29年2月11日

第5回 小平市公共施設マネジメント市民会議

- 内 容：①小平市公共施設マネジメント推進計画（素案）及び小平市公共施設等総合管理計画（素案）に関する説明
②ワークショップ「公共ファシリティマネジメントゲーム」
- 日 時：平成29年2月11日（土曜） 午後2時～午後4時
- 場 所：中央公民館 学習室4



市では、将来の人口減少や施設の老朽化など、公共施設を取り巻く環境の変化を見据え、平成27年12月に、これからの公共施設の大きな方向性を示した公共施設マネジメント基本方針を策定しました。基本方針に沿った具体的な取組を推進するため、小平市公共施設マネジメント推進計画などを策定するにあたり、市民の皆さんの声をお聴きし、意見交換を行う市民会議を開催しています。

今回の市民会議では、前半に小平市公共施設マネジメント推進計画（素案）と小平市公共施設等総合管理計画（素案）の内容についての説明及び質疑応答を行い、後半では公共施設マネジメントを題材にしたゲームを行いました。



市民会議の様子



市からの説明の様子



公共ファシリティマネジメント
ゲーム

裏面につづく

公共ファシリティマネジメントゲームについて



公共ファシリティマネジメントゲームは、さいたま市などが開発した公共施設マネジメントを題材にしたボードゲームです。

将来の人口減少・少子高齢化、施設の老朽化などの「条件」を踏まえながら、公共施設の複合化などの方策を駆使し、効率的で効果的な公共施設の適正化を考えるゲームです。

参加者は、公共施設マネジメントを推進するプレイヤーとなり、ゲームを体験することによって、公共施設マネジメントに対する更なる理解と関心を高めることを目的としています。



グループに分かれ、公共ファシリティマネジメントゲームを行っている様子。

ゲームに関する主な感想



- ・実際に公共施設マネジメントを考える際の導入として有益だと考えます。
- ・ゲームの中で公共施設の統廃合を考える際に、コンセプトから外れないように考えなければいけないことを痛感しました。
- ・同じグループの方々と意見をまとめることや合意形成の難しさを感じました。社会の縮図が凝縮されたゲームだった。
- ・面白かった。もう一度やってみたい。



【お問合せ】

小平市 企画政策部 行政経営課

〒187-8701 小平市小川町2-1333

TEL 042-346-9756 FAX 042-346-9513

メールアドレス gyoseikeiei@city.kodaira.lg.jp

小平市 公共施設マネジメント市民会議
報告書（平成28年度）

平成29年3月発行

編集・発行 小平市企画政策部 行政経営課
〒187-8701
東京都小平市小川町二丁目1333番地
電話番号（042）346-9756
電子メール gyoseikeiei@city.kodaira.lg.jp